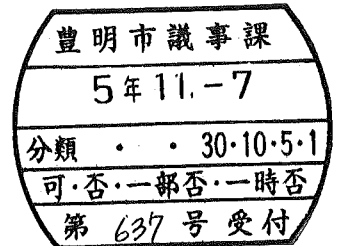


様式第2号

5年 11月 7日

豊明市議会議長 殿



行政等視察報告書

議員名 一色 美智子

令和5年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
令和5年10月25日	青森県弘前市	投票率向上につながる投票環境の整備について
令和5年10月26日	岩手県盛岡市	食と農のバリューアップ推進について

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

令和5年度 豊明市公明党視察報告書

一色 美智子

10月25日（水） 青森県弘前市
「投票率向上につながる投票環境の整備」について

26日（木） 岩手県盛岡市
「食と農のバリューアップ推進」について

参加議員 豊政会 三浦桂司議員 月岡修一議員 いとうひろし議員
ひまわり 堀内ちほ議員
公明党 一色美智子

10月25日（水） 青森県弘前市
「投票率向上につながる投票環境の整備」について

人口 約16万2千人 世帯数 約7万1千世帯
面積 約524.20km² 高齢化率 32.3%（令和2年9月）



弘前市は、青森県の西南部に位置し内陸型地域で、東に八甲田連峰を望み、西に「津軽富士」と呼ばれる青森県最高峰の岩城山を有志し、南には、秋田県にまたがり世界遺産に登録されている白神山地が連なり、青森県の基幹農産物であるりんごの約4割を生産する樹園地が広がり、さらにその地域をとりまくように山林地帯が伸び、緑豊かな自然環境に恵まれている。

平成18年2月27日、弘前市・岩木町・相馬村が合併し、新弘前市が誕生した。



（1）期日前投票所の設置について

- ・平成18年4月新市長選挙から3か所（旧市町村庁舎）開設
- ・平成19年4月県議選挙から4か所（総合学習センターを追加）
- ・平成27年4月県議選から6か所（駅前商業施設ヒロロ、弘前大学（3日間）を追加）

(2) 共通投票所の設置について

- ・平成28年4月、公職選挙法が改正され「共通投票所」の設置が可能となる。
- ・平成29年3月、地方選挙の開設で、対象経費の2分の1が特別交付税として算入されることとなった。
- ・平成30年4月の市長選挙・市議会議員補欠選挙から導入する。



(3) 導入内容について

- ・有線につながっている5施設を除き、全て無線LANによるネットワーク化により実施。
- ・選挙人情報をバーコードリーダーで読み取ることで、瞬時に検索ができるようにした。
- ・システムが利用できなくなった場合に備え、従来の紙抄本での受付に切り替えられるようにした。

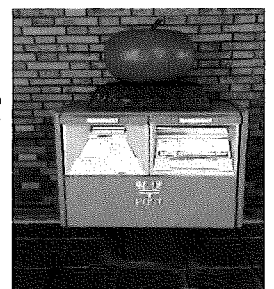


(4) 設置による効果について

- ・選挙により変動があるものの、極端に投票率が低下した投票所はなく一定の効果があったと考える。
- ・市民の日曜日の消費行動として、弘前駅より東側の郊外型店舗へ出かけていることが多いことも一因している。

《まとめ》

- ・平成30年4月の市長選・市議補選以降、平成31年4月の県議選、市議選、6月の県知事選、7月の参院選の共通投票所の投票数全体に占める投票数の割合をみると、市議選・市長選では全体の0.92%の投票割合であったが、その後0.57~0.47と伸び悩んでいる。
- ・弘前大学への設置は、学生自身住民票を移してないことを含め、期日前投票所も設置以前の課題があると思われる。
- ・利用者の多い商業施設（ヒロロ）への設置は効果が大きい、投票率向上に有効と考えられる。
- ・スペースの確保や使用料などの課題があり、環境整備のための費用は避けられない状況がある。
- ・その他の投票率向上に向けた取り組みでは、本年4月の県議選・市議選・6月の知事選では投票所でBGMを流した。これは本市でも試験的に行ってもよいのではと感じた。



- ・今後投票率の向上のために、若年層・高齢者・障がい者の方々の投票環境の整備を行っていく必要がある

26日(木) 岩手県盛岡市

「食と農のバリューアップ推進」について

人口 約28万3千人 世帯数 約13万2千世帯

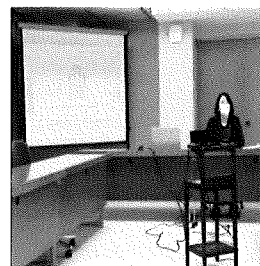
面積 約886.47km² 高齢化率 29.3% (令和4年10月)

江戸時代は20万石の城下町として栄え、明治22年に市制が敷かれ盛岡市が誕生した。以来、岩手県の県庁所在地として、政治・経済・教育・文化の中心として発展し、平成20年4月に中核市となる。

令和5年1月12日にニューヨーク・タイムズ紙「2023年に行くべき52カ所」の第2位に選ばれる。

農業従事者の推移

H22年	10,246人	平均年齢	57歳
H27年	7,830人	平均年齢	59歳
R2年	5,822人	平均年齢	61歳



認定農業者数

H30年	279	R1年	284	R2年	283	R3年	289
R4年	291						

新規就農者数

H30年	24人	R1年	11人	R2年	25人	R3年	15人
R4年	9人						

盛岡市の特徴

飲食店数 県内第1位 全国69位

盛岡市の農業産出額

県内第2位 全国 第58位

策定の趣旨

農業と第2次及び第3次産業との連携を強化しながら、盛岡産農畜産物の高付加価値化と販路拡大を推進し、更なる認知度の向上や利用促進・消費拡大を図ることで、農家所得の向上（儲かる農業）や食関連産業の活性化を目指すため策定した。

戦略の期間（平成30年3月策定／令和2年3月1部改訂）

令和2年から令和6年度までを中間取組機関とする。

もりおか食と農の将来像について

フェーズ1 盛岡産農畜産物の認知度アップと消費の拡大

フェーズ2 「食と農」でもりおかの魅力向上

フェーズ3 来盛社・新規就農者・食産業の担い手が増加

将来像のイメージについて

生産者 誇りをもって農業生産に取り組み、新たな商品・サービスを提供することで所得が向上。

事業者

盛岡産農畜産物を、自社の事業推進に積極的に活用し収益が増加

消費者

盛岡産農畜産物や加工品等に愛着を持ち、積極的に消費するとともに市内外の人にも推奨。

「美食王国もりおか」とは？ 盛岡の食と農を応援する取組

- ・モチーフ お椀と王冠
- ・同じテーブルを囲むのは・・・
 - ① つくる人（生産者）
 - ② つなぐ人（事業者）
 - ③ たべる人（消費者）



《まとめ》

- ・盛岡市では食と農バリューアップアクションプランを作成して、多くの事に取り組んでいる。
- ・生産者・産地などに対する認知や理解の向上を通し、市民や市内の食産業の事業者が愛着がもてるよう取り組んでいる。

- ・愛着を持って消費・利用する人とのつながりを深めていくことで、価値あるものとして認識されるようになり、まちの魅力が向上できればと考えます。
- ・「美食王国ファンクラブ」があり、もりおかの食と農を応援する人（会員数）が1,302名 ここから情報発信、イベントの先行募集、イベント開催、会員割引等を行っている。素晴らしい取組みと思いました。
- ・豊明市ではまだまだこの盛岡市のようになるのには時間がかかると感じました。
- ・産直は10施設ありますが、農家レストラン・カフェと言ったものはまだこれからのようです。
- ・転作が上手くいっていないとのことでした。
- ・農福連携に今後どうつなげ、取り組むかが課題ということでした。

